旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群

役目終えても美とどめ

タウシュベツ

十勝管内上士幌町役場企画課の平岡崇志さん（26）にある日、同行をお願いした。

同町の市街地から国道273号を車で北上し、糠平湖北端の丸山橋を渡って右折。林道をしばらく走ると、タウシュベツ川橋梁（きょうりょう）が見えた。

この橋は長さ130メートル。糠平から十勝三股にかけて約50本にのぼる旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群の中で、最も長い。柱の間が10メートルのアーチが11基連続し、薄いベージュ色が美しい。

近くで見るとコンクリートの外壁が朽ち始めて

私と遺産

残したい”埋もれた宝“

「ひがし大雪アーチ橋友の会」の事務局長として、保存運動の中心的な役割を担っているのが角田久和さん（50）。広島市出身で10年前、夫人の実家がある上士幌町に移住した。本業は角田建築事務所を経営する一級建築士。「友の会」の事務局は建築事務所内にある。

角田さんらは97年「地域の宝さがしの会」を発足させた。後世に残したい埋もれた宝の発掘に努め、秋に掘り残したジャガイモが凍結を経た翌年春、意外にうまいことを発見した。音更川を利用した木材流送の基地を捜し、馬頭観音を探った。食べ物や花、動物も宝さがしの対象だった。

アーチ橋も、もちろん貴重な宝。だから、アーチ橋を取り上げたシンポジウムでの呼び掛けに応じ、角田さんは「保存する会」の発起人に名を連ねた。

「アーチ橋の活用で全国から滞在型観光客を呼び込めたら町おこしになる」と張り切る。

まちづくりと遺産

旧国鉄士幌線の廃止で、旧国鉄清算事業団は上士幌町にアーチ橋を解体・撤去する方針を示した。解体の危機を前に、北海道産業考古学会は97年7月、同町で「上士幌鉄道アーチ橋と産